

酒々井町

郷土研究会会報

第121号

平成18年7月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

酒々井町今昔



七、山百合と竹ゾリ
川島 俊彦

現在の成城台一体は山と畑が大部分でした。パークアベニューあたりは畑であり、ひばり公園から美空公園の西側あたりまでは松山でした。夏は一面山百合の「お花畑」のようでした。

冬は松葉が沢山落ちるスロープがありました。昭和二十年ごろまでは、「ヤママテ」といって、カマドに使う「カヤ」採りをしたところでした。

私は祖父から「クズカヤ」のまめ方を教わりました。松の葉は細かいので、一番下へ藁縄（アラナワと言っていた）を二本敷き、その上へ松の葉がこぼれないように「粗朶」（一メートル位に切った小枝）を乗せ、竹製の「熊手」ではき寄せた松の葉を乗せ最後にアラナワで締め付けるわけです。

また松の葉や小さな雑草があるスロープでは竹ゾリでスキーをしました。子供達は竹を縦割りに七センチ幅ぐらいにしたものを、焚き火で先端を焼き曲げにして四、五本ずつ針金でつなぎ合わせるわけです。丁度尻の幅と同じぐらいになるので、三、四人が乗りスロープの上へ持ち上げ、滑り降りては又高い所へ登って行って楽しむものです。中には途中で脱落する人もありますが皆楽しんでいました。（今ではプラスチック製のものがあります。）

八、凧上げ
現在のカーコンピニさんとカレー屋さんの間は赤道でした。カーコンピニさんのある、本佐倉二九八番地は深い畑になっていました。
パイパス二九六の出来る前の周辺は全部低地の畑でした。
赤道から大京さんあたりまでは赤道より十メートルぐらい低地でした。その赤道は通称「向う土手」と呼んでいて子供達の「凧揚げ」に恰好の場所でした。
筑波風の風が丁度良く吹くと凧は天高く上がって、土手で一日中腰掛けていても、落ちてきませんでした。
子供達がいろいろなことを喋り合う「社交場」でもありました。
小さい子は凧の芯出しが出来ず、また「水汲み」でくるくる落下した時は上級生が凧の「要」を見てやつたものです。
私は、一度高く上がった凧糸の糸巻きを離してしまい、佐倉の大蛇の方へ逃げられて、悔しい思いをしたことがありました。

今年の郷土史講座「佐倉牧と酒々井」は八月二十七日(日)です

いすみ方面を訪ねて

森田 艶子

三月八日、晴天。公民館より町バスにて、いすみ方面、万木城跡公園に向う。今から六〇〇年ぐらい前に築かれた万木城は、戦国乱世の中、幾度となく攻められたが、土岐氏三代「頼元」為頼・頼春」によつて守られてきた。三方を夷隅川に囲まれ、これが外堀の役目を果たしていたようである。

しかし、小田原北条氏が滅亡した天正十八年(一五九〇)七月、本多忠勝に攻略されて落城した。今でも城跡からは焼米が出土するという。

現在は公園となり、展望台からの眺めは素晴らしく、梅の花が咲き春の香りが漂っていた。

ネイチャーセンターで昼食。ここ「いすみ環境と文化の里」は、身近に接することが出来る自然がいつぱいで、屋内土間には、昔の農機具や生活用具等がたくさん並べられていた。

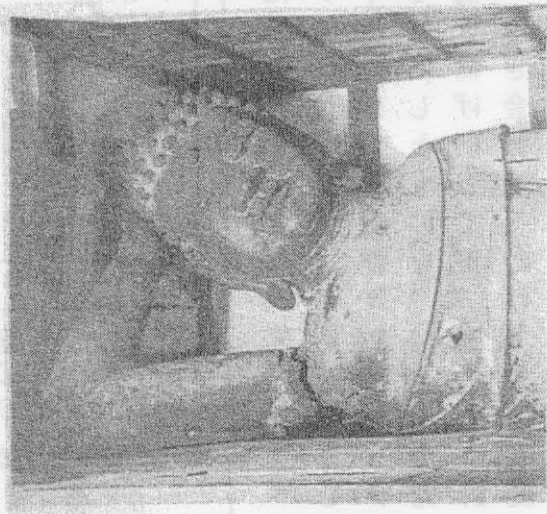
次に、城山のふもとの海雄寺に行く。青銅製の釈迦涅槃像(県指定文化財)が横たわっており、寝釈迦様と呼ばれている。全長五メートル十六センチ、優しいお顔をしていた。私には、

こんな優しい顔が出来るのだろうか？ 又、ここには土岐氏三代の位牌が祀られている。

続いて宝勝院(関東不動尊第三十四番・天台宗)である。「病」を除けるため、良弁僧正御作の「不動明王像」が安置されている。

成田山新勝寺は「やがて田となり山となり、資産(しんしやう)新勝を造るお寺」として信仰をあつめている。一方、当宝勝院は「いすみは居て住むのに良い所の不動尊」として知られているそうである。(刈谷不動尊)

お茶を頂き、バスは公民館への帰途につく。楽しい一日であった。

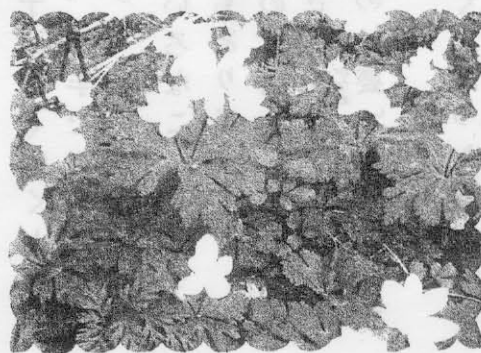


野草観察会

野草部

四月二十五日朝から小雨模様の生憎の天気でしたが、参加者皆さんの熱い意気込みもあつて、予定通り観察会を執行することにしました。

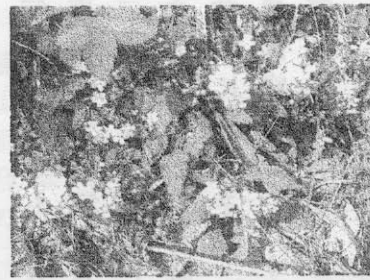
今回は例年より十日程遅い観察会でしたが観察場所である墨、馬橋方面は、ニリンソウ、ヒトリシズカ、ムラサキケマンなど春を満喫させてくれる所でした。



また、事前に下見をして、珍しい野草や見分けにくい野草などデジカメで撮影し、ミニ解説を付けて出発前に皆さんにお渡ししました。

歩きながらの観察会は、野草談義であれこれと盛り上がりました。帰路は、雨が少し強くなりましたが、休憩所の五良青年館に辿り着くと留守番組の人達が温かい昼食を準備してくれていて、これには本当にほつ

とさせられました。
 次回も事前にデジカメによる観察シートを作り、今回と同じような方法で実施したいと考えております。
 郷土の野草を愛する皆さん、今後ともよろしくご協力をお願いします。



キジムシロ (雑草)

円く広がった株をキジの座る席に見立てたもの。

「町内史跡巡り」に参加して

永井 わか子

当日は朝から雨、二十余名の方々と傘をさして上岩橋方面の史跡巡りへと出発いたしました。

妙楽寺のあと長福寺では、県の重要文化財に指定されている阿弥陀如来坐像(平安後期時代)と脇侍の木造持国天・多聞天像を、特別に拝観させて頂きました。見上げると温和なお顔がありました。

仏教伝来以前の自然崇拜としての菊賀神社で、氏子の小坂町長より御

説明がありました。真新しい鞘堂の中に、流れ造りの本殿があり、孫子の代まで大切に残したいとの事でした。

駒形神社、大崎観音堂と巡るうちに、雨もやんで空が明るくなってきました。岩橋分教場跡には、新緑の中、シロツメ草が沢山咲いていて、ついこの間までここに教室があったのかと思うと、子供達の元気な声が聞こえてくるようでした。

いつも何気なく歩いている道に往時の道標があったり、停車場という言葉も懐かしく、道祖神には思わず手を合わせました。

酒々井町となつてから四一五年、天正年間から続いている町は、全国



多聞天

持国天

にも無いのだそうです。
 ここに移り住んで十五年、酒々井町の歴史に少し触れ、一層身近に感じられた一日でもありました。
 トケ崎青年館では、お茶、お菓子の接待をして下さいました。
 お世話して下さいました皆々様にお礼申し上げます。

郷土研日誌

月日	内容	参加人員	月日	内容	参加人員
18.3.28	会報印刷	4	5.16	古文書を読む会	10
3.30	会報発送	18	5.23	小石川方面下見	3
4.7	県外見学会受付	3	5.23	編集会議	5
4.8	千葉氏研究会	16	5.30	運営委員会	17
4.17	野草下見	2	6.1	編集会議	4
4.18	古文書を読む会	10	6.3	史談会 (和田のむかし)	17
4.24	野草観察会準備	2	6.6	名勝探訪 (小石川方面)	32
4.25	野草観察会	12	6.14	編集会議	5
5.6	秋田ふるさと館見学	13	6.20	編集会議	4
5.9~10	県外見学会 (仙台方面)	32	6.20	古文書を読む会	10
5.14	町内史跡巡り (上岩橋)	25	6.23	編集会議	4

仙台方面の旅

森本 一美

待ちに待った東北地方への旅行である。集合時間の一時間も前に家を出掛けたが、私より楽しみにされている方が多く、後ろの席になってしまった。

バスは一路昼食の場所に向かっただけ走り走った。白石のドライブインで美味しくいただくことができ、私の判定では合格、アイスクリームまで食べた。旅は食物で良し悪しが決まるものだ。

食後もう少しゆっくりしたかったが、行程の都合もありバスに戻った。今度は多賀城跡である。着いたら年配の二人が案内してくれた。ボランティアの方々との感謝。多賀城は八世紀前半に創建され、奈良・平安時代の陸奥国府として、又、奈良時代には鎮守府も併設されるなど、東北の中枢をなし、古くは「奥州国司館」と称され、多賀城碑が発見されたからは、「多賀城」と称されるようになったのとです。多賀城碑は日本三古碑の一つで、日本三古碑とは多賀城碑・那須国造碑・多胡碑(群馬)を言います。城壁、石垣の跡や方角の見方等説明



多賀城碑文割付図 (安倍辰夫氏作成)

も詳しく、如何に古代から重要な拠点であり、中央とのつながりが深かったかが分り、しかも楽しくて、良い勉強になりました。

次は奥松島の浜辺から遊覧船で嵯峨溪へ奇岩巡り。水は透明で、絶壁には形の良い松が生え、岩は鋭く削られ、見事でびつくりの連続だった。

宿に入るには早いのか、大高森展望台まで足をのぼした。一寸疲れていたが、がんばって頂上まで登った。見晴しの良いこと、天下一品。奥松島に戻り夕食を済ませ、風呂に入り満足の一日だった。さあ朝だ。四時半に目を覚まし風呂の開くのを待ってゆっくりとつかって一日の始まりだ。最初の行き先

は海辺の五大堂。足元に注意しつつ説明を聞く。瑞巖寺も一回りし手を合わせて、又来るねと別れてきた。真赤な大鳥居、国宝大崎八幡宮では雄大さにあつけにとられた。一寝入りしたら昼食だった。美味しい昼食であり、幸福な連続の二日間であった。今度は誰とくるのかな？

会計報告	
春の野草観察会 (平成18年4月25日)	
参加者12名	
収入	会費 100円 100円×12=1,200円
支出	資料代 700円 諸雑費 500円
仙台方面 (平成17年5月10日~11日)	
参加者32名	
収入	会費 24,000円 24,000円×32=768,000円
支出	(有)ミヨシ観光 404,050円 簡保の宿・松島 316,992円 諸雑費 26,195円 801,237円
残金	20,763円 (研修部へ)

郷土史講座の

ご案内

「佐倉牧と酒々井」

講師 木内達彦氏

八月二十七日(日)

午後一時三十分

中央公民館 研修室

佐倉牧は徳川幕府の野馬の生産牧場で、放牧されていた馬の数は約三千頭、この馬の中から毎年の秋におよそ二百頭が捕らえられて、乗馬用・運搬用・農耕用の馬として払い下げられました。

この牧場を管理する牧士組頭の島田長右衛門は酒々井の人です。

島田家から発見された古文書「野馬御用日記」から、当時の佐倉牧の様子や、春の出生馬の保護・秋の野馬捕りで活躍する牧士の働きなど、うかがい知ることができます。

今回は、江戸時代の軍事・交通・産業に重要な役割を果たした馬の生育に係わった郷土の人達のお話です。

見学

案内

名勝探訪

上野方面

九月二十二日(金)

雨天代替 九月二十七日(水)

残暑の中、久しぶりに上野周辺を散策しようと思います。

西郷隆盛像や上野東照宮など、のんびりと不忍池を眺めるのもいいですね。ワニ亀にご用心!

午後には自由行動になりますので、思い思いの場所、上野動物園や国立博物館、東京都美術館を訪れたり、またアメ横などで買物をするのもいいです。落語を聞いて帰るのもいいと思います。多数の皆様のご参加お待ちしております。

秋の野草観察会

九月二十九日(金)

雨天中止

九月末、ツリフネソウの群生地を観察します。もう一つ「蔓人參つるにんじん」別名「ジイソブ」、この花は直径三センチ程の釣り鐘型、根が朝鮮人參のように太く、茎が蔓になることからつけられたものです。

自然相手の観察会、今年も見つける事が出来るか楽しみです。尚、今回の昼食・勉強会は屋外(総合公園)にて行います。

あとがき

紫陽花が映える梅雨の最中で空模様が気がかりな毎日です。

四月の野草観察会・五月の町内史跡巡りとも朝方降り、のち上がるというお天気で日程を楽しく消化することが出来ました。心掛けのよい人達のお陰です。

間もなく梅雨もあけエアコン無しでは居られない暑さが到来しますが、郷土史講座をはじめ各行事に、ご健康に留意の上参加していただきたいと思っております。

楽しいことを探してこの夏も頑張ります。



郷土研行事案内

平成18年7月～9月

史談会	7月 1日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」③ 講師：高橋健一先生	8月 休 講	9月 2日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」④ 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	7月 18日(火) 13:30 中央公民館会議室 「岡田家文書」④ 講師：青木朝次会長	8月 休 講	9月 19日(火) 13:30 中央公民館会議室 「岡田家文書」⑤ 講師：青木朝次会長
研究会	8月5日(土) 13:30 中央公民館会議室 テーマ 「千葉氏の研究」② 講師：浜口信義氏 (注) この研究会は、不定期に行われます。 今回は、10月の第1土曜日を予定しています。		
郷土史講座	「佐倉牧と酒々井」 日時 8月27日(日) 13:30 (開場 13:00) 講師 酒々井町教育委員会 木内 達彦 先生 会場 中央公民館 研修室(2階) 後援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会		
名勝探訪	「上野方面」 9月22日(金) 雨天代替日 9月27日 (当日の間合せ 7:00～7:30 寺本まで 参加費 100円(資料代)… 別途入館料必要 集合時刻・場所 8:10 京成酒々井駅・構内改札口前 コース 京成酒々井駅→京成上野駅…西郷隆盛銅像…下町風俗資料館…清水 観音堂…上野東照宮=現地解散(その後、自由昼食・自由散策) 《ご参考》 散策の推奨先：上野動物園、東京国立博物館、国立科学博物館、東京都美術館、 旧岩崎邸、アメ横 など		
野草観察会	9月29日(金) 雨天中止 (当日の間合せ 8:20～8:50 犬島まで 集合時刻・場所 9:25 中央公民館ロビー 参加費 100円 弁当・飲み物・敷物等各自持参 観察場所 墨方面(ツリフネソウ、ツルニンジン 等) * 観察終了後、総合公園で昼食、勉強会を行います。 * 14時頃、現地解散の予定。		